

## 吹奏楽

中橋 愛生

「アフターコロナ」という言葉を多く耳にするようになった2024年。コロナ以前より開催されていた大きな定例イベントも多くが再開され、各団体の演奏会もかつてと同様に行われるようになった。だが、コロナ禍で確実に吹奏楽人口は減少しており、ここに楽器やリードなどの消耗品の価格高騰が追い討ちをかけ、さらにスクール・バンドには部活動の地域移行が過渡期ということもあり、先が見通せない状況は続いている。アマチュア吹奏楽の今後がどうなるのかは、まだ数年経たないと見えてこない。

## ■国内団体の動き

4月1日より東京校成woの常任指揮者に大井剛史、楽芸員に中橋愛生が就任。11月1日より佐々木新平が東京吹奏楽団の正指揮者に就任している。11月にはオオサカ・シオンwoが2025年4月から首席客演指揮者にダグラス・ポストックを招くと発表した。オオサカ・シオンwoは8月には2023年度音楽クリティック・クラブ賞特別賞を受賞している。また、5月18日には九州管楽合奏団が首席客演指揮者でもあるオランダの作曲家ヨハン・デ・メイの自作自演によるCDをヨーロッパのCDレーベルAmstel classicsよりリリースした。陸上自衛中央音楽隊は7月25日から27日にかけてスウェーデンで開催されたエークシェー国際軍楽祭に参加するなど、各団体とも意欲的な姿勢を示している。

音楽大学では、12月3日に洗足学園音楽大学グリーン・タイweがスペインの作曲家ルイス・セラノ・アラルコンに新作交響曲を委嘱し自身の指揮で初演したのが大きな話題となった。また、桐朋学園大学が部活動の地域活動化に応答する形で桐朋学園大学ジュニアwoを設立し7月から第1期メンバーを募集、2025年3月27日の第1回演奏会を目指している。

## ■イベント

前述の通り、様々なイベントがコロナ以前と同じ規模で再開されつつある。特に4月28日に金沢にて開催された「ガルガンチュア音楽祭」では「吹奏楽の祭典」が行われ、5年ぶりの屋外での吹奏楽の祭典となった。また、8月15日から18日まで水戸市民会館にて開催された国内外の女性金管楽器奏者が集う「インターナショナル・ウィメンズ・プラス・カンファレンス」では吹奏楽コンサートも設けられ、日本を会場とした国際的なイベントも行われた。海外からのゲストが国内の吹奏楽イベントに携われるケースは個人単位でも増えてきており、例えば10月19日には「第3回秋田・潟上国際音楽祭2024」にてドイツの指揮者レインハルト・ジーハファーが秋田県潟上市の中学生合同バンドのために作った吹奏楽曲を自作自演している。

その一方で、5月末には「全国ピュラーステージ吹奏楽コンクール」（主催：日本吹奏楽普及協会）が体制リニューアルとして第9回目となる今年度大会の延期を発表、本稿執筆時点で次回開催の案内は行われていない。

## ■海外との交流

日本のバンドが海外に進出するのも盛んになった。毎年1月1日にアメリカで開催されているローズ・パレードには日本からのバンド出場が続いているが、今年は東邦高校マーチングバンド部と愛知東邦大吹奏楽団による東邦マーチングバンドが出場した。3月下旬には、明治大学付属明治高校がウィーンに、東海大学付属高輪台高校がオーストラリアに、それぞれ演奏旅行を行った。7月には大阪のアマチュア金管バンド「イモータル・プラス・エターナリー」がニュージーランド・ナショナル・プラスバンド選手権に出場し、最上級部門であるAグレード

において7団体中4位となる。7月16日には龍谷大学がスイス・チューリヒで行われた世界ユース音楽祭のマキシマム・クラスで第一位を受賞、併せて各地で演奏を行った。9月17日から20日にかけて愛知工業大名電高校がマレーシアの音楽フェスティバルに参加、12月下旬にシカゴで開催されたミッドウエスト・クリニックには埼玉県立伊奈学園総合高校が出場、12月末には日本高等学校吹奏楽連盟の主催により全国の中学から大学生まで100名超で構成された全日本特別選抜吹奏楽団がローマ・バチカンでコンサートを開いている。近年は特に台湾との交流が厚く、今年も5月31日にオオサカ・シオンwoが桃園管楽嘉年華に出演（指揮：ダグラス・ポストック）、7月1日に東海大学付属札幌高校が演奏旅行を行った。12月下旬に行われる嘉義市国際管楽祭には近年日本のバンドが多く招かれており、本年も茨城県立大洗高校マーチングバンド部、浜松修学舎高校吹奏楽部、静岡大学吹奏楽団、福井県立武生商工高校吹奏楽部、長野県高校選抜吹奏楽団が出演した。

海外からの来日も回復傾向にある。1月21日にカーセージ大学の吹奏楽団が来日、くらしき作陽大学と合同演奏を行った。7月13日には韓国で開催されたWASBEに参加するブルックリン・ウインド・シンフォニーが来日し、おのみや市民吹奏楽団とジョイントコンサートを開催している。7月末から9月中旬にかけて「ブラスト！」が、10月末から11月上旬にかけてブラック・ダイク・バンドが、11月下旬から12月上旬にかけて英国近衛軍楽隊（コールドストリーム・ガーズ）が、それぞれ来日ツアーを行っている。11月15・16日の自衛隊音楽まつりのためには外交関係樹立70周年としてヨルダン軍軍楽隊が初参加。シドニー音楽院ウインドシンフォニーも来日し、11月30日に桐朋学園大学シンフォニック・ウインズと、12月2日に名古屋芸術大学ウインドオーケストラと合同演奏会を行っている。

## ■その他の話題

昨今のスクール・バンド事情の変化に伴い、吹奏楽コンクールの在り方にも改革がみられる。小学校バンドフェスティバルが座奏中心の「ステージパフォーマンス部門」と立奏中心の「マーチング部門」に分かれ、前者は全日本吹奏楽コンクール大学の部と同日開催、後者は従来通り大阪城ホールでの実施となった。全日本吹奏楽コンクールの「中学校の部」は「中学生の部」に変更となり合同バンドの参加が大々的に認められるようになる。また、中学の部・高校の部が4部制での実施となり、大会運営の在り方にも変化が見られる。さらに、課題曲の公募要項が大きく変わり、演奏上の規制も大幅に緩和されるようになり、この先の課題曲の在り方もさらに変わっていくことが見込まれている。

ラジオ番組では、1月から文化放送が「藤重佳久Swinging Harmony ~ Winds Brass Revolution ~」（MC：藤重佳久、鈴木万由香）を放送開始。一方で3月31日にはオオサカ・シオンwoの活動を紹介していたFM京都 a-STATION「TUNING ROOM」の放送が終了となった。

個人の海外での活躍が多かったのは嬉しい知らせ。3月にはバーバラ・ビュールマン作曲コンクール・中学生向け作品部門の第一位を下田和輝が受賞。5月には孝橋人誌の作曲作品が欧州プラスバンド選手権で初演されており、同大会で邦人作品が自由曲となるのは史上初となった。11月には甘粕宏和がシチリア島で行われた「第3回フレデリック・フェネル国際吹奏楽指揮コンクール」にて2位となっている。

## 中橋愛生（なかはし・よしお）

作曲家。1978年生。東京音楽大学および同大学院を修了。日本音楽コンクール作曲部門第三位、日本管打・吹奏楽学会アカデミー賞、日本吹奏楽指導者協会「下谷奨励賞」を受賞。2008年よりNHK-FM「吹奏楽のひびき」パーソナリティも務める。2010年から4年間、「レコード芸術」誌で吹奏楽・管楽器部門の新譜月評を担当。現在、東京音楽大学教授、国立音楽大学・日本大学芸術学部各講師、日本管打・吹奏楽学会理事、日本管楽芸術学会正会員。